

※印の欄は記入しないでください

大屋根と木の温もりに包まれた地域医療の拠点『奥会津コモンルーフホスピタル』

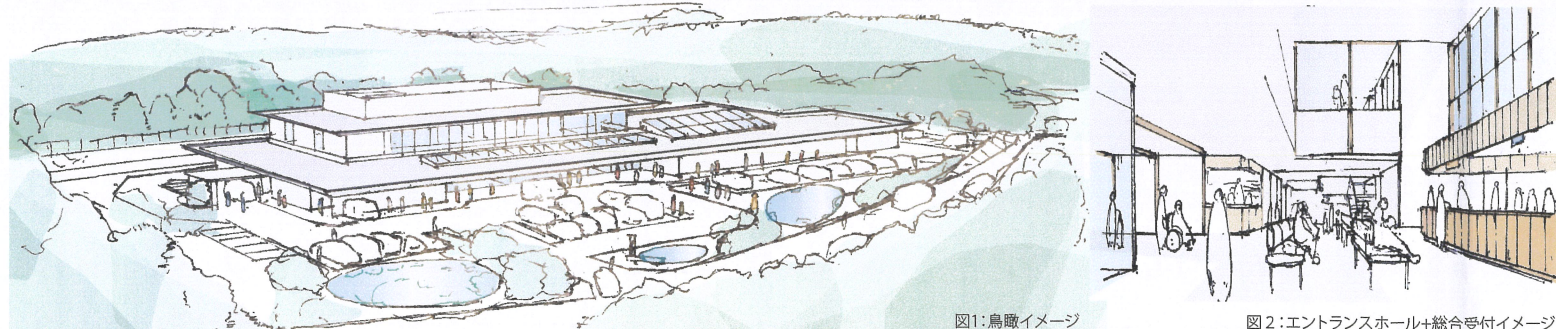


図1:鳥瞰イメージ

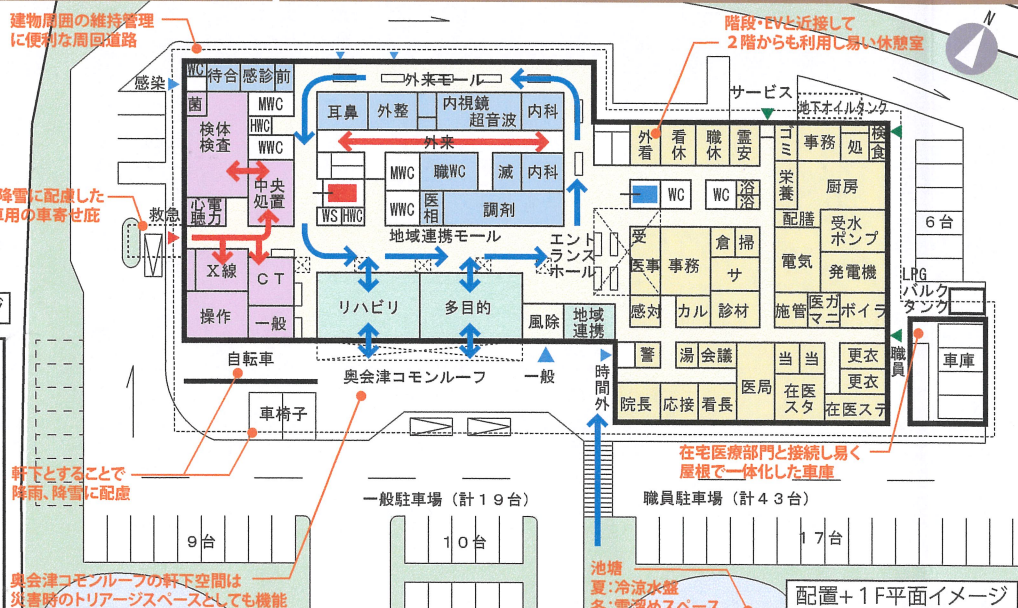
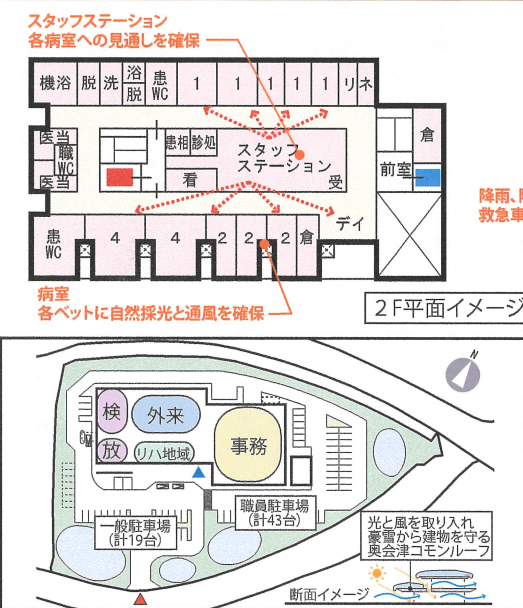
図2:エントランスホール+総合受付イメージ

地域医療を支える病院としてのコンセプト

- 1. 患者に分かりやすく、職員が働きやすい病院
- 2. 災害やパンデミックに強く、豪雪地域でも安全・安心な病院

奥会津の景観と文化を形成する建築としてのコンセプト

- 3. 奥会津の豊かな自然の潜在力を活かす建築
- 4. 奥会津の木の手仕事の文化を大切にする建築

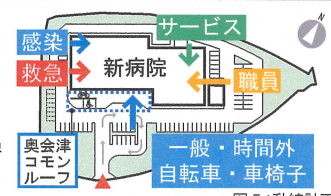


(1) 地域の人々の安全・安心を支える施設の提案

① 過疎化や高齢化が著しい奥会津地域において、使いやすさ、分かりやすさへ配慮した、利用者の安全・安心を支える施設の提案

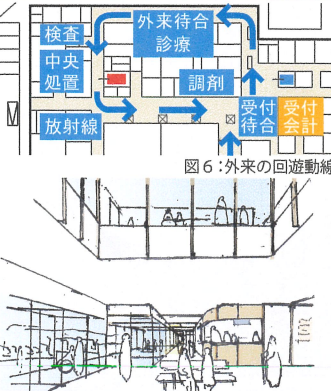
●明快で分かりやすい配置計画、安全、安心な動線区分

- 一般患者、時間外診療は分かりやすい前面出入口とし、高齢者に優しい動線の短い計画とします。
- 職員、サービス、救急、感染の出入口と動線を明確に区分し、安全・安心な配置計画とします。



●外来患者に円滑な医療提供を実現する回遊動線

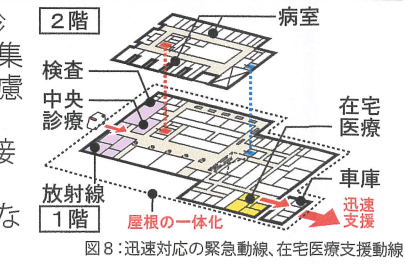
- 患者の受付、待合、診療、検査、処置、放射線、調剤、会計の一連の医療提供を、外来部門を中心として一筆書きの回遊動線によって繋ぎ、患者の上下移動が無いワンフロアでの計画とします。
- 吹抜けや光井戸を配置し、自然光を取り入れる事で明るい空間にするとともに、吹抜けを介した上下階の視覚的つながりを生むことで施設構成が把握し易い計画とします。



② 地域生活を支えるための在宅医療や、診療圏唯一の入院機能を持ち、救急患者の対応が可能な医療機関として、地域に密着し、開かれた施設の提案

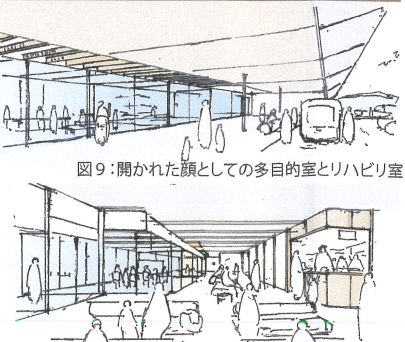
●迅速な救急搬送と関連部門との連携を強化する緊急動線

- 救急搬入口、放射線、検査、中央診療の緊急性の高い部門を西側に集約し、EVIによる病棟との連携に配慮した緊急動線とします。
- 在宅医療部門と公用車庫を近接し、屋根で連続させることで豪雪、豪雨の悪天候時や夜間でも迅速な在宅医療支援を可能とします。



●まちに開かれ、情報交流や相談窓口のある地域連携部門

- 奥会津コモンルーフに面した多目的室、リハビリ室は、講演会や健康教室の催しがまちに開かれ、外部と直接出入可能とすることで将来的な通所リハビリにも対応します。
- 地域連携モールには、地域医療連携、リハビリ、薬剤、医療相談が面することで、健康・医療・介護の情報交流や処方箋等の気軽な相談が可能となります。



(2) 奥会津地域の特性と調和し、特別豪雪地帯を考慮した施設の提案

① 周囲の緑豊かな自然と調和し、温もりや安らぎ等が感じられる内観・外観デザインや構造に関する提案

●景観に配慮し、意匠性と耐久性を兼ね備えた外装計画

- 建物高さを抑え、2階の病棟を1階からセットバックし、圧迫感を軽減します。
- 雪国特有の意匠性と耐久性を兼ね備えた外装とします。

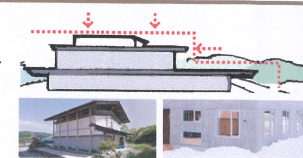


図11:積雪や吹きさらしに強い外装(RC)

●既存樹や地場産材を活かした木質化の内装計画

- 伐採予定の既存樹(スズカケやスギ)を利用し、カウンター等の造作材に取入れる計画とします。
- 内装は地場産のスギ等による木質化を図り、温もりが感じられる計画とします。

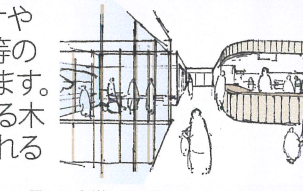


図12:木質化による温もりある2階病棟の内装計画

② 特別豪雪地帯である奥会津地域の降雪や積雪を考慮した施設の提案

●無落雪屋根による豪雪対策

- 奥会津コモンルーフにより、軒下空間を作り、豪雨、豪雪時のアクセスに配慮します。
- 無落雪屋根とし、軒下の安全性と除雪負担を軽減します。

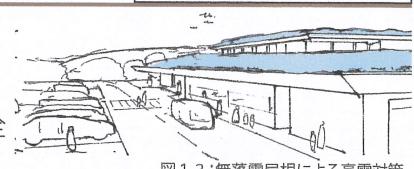
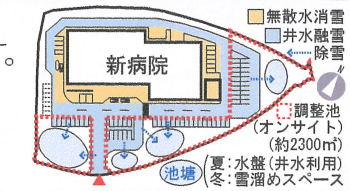


図13:無落雪屋根による豪雪対策

●井水融雪と無散水消雪の併用、季節で使分けける池塘

- 既存井水と無散水消雪を併用し、建物周囲の除雪負担を軽減します。
- 池塘(ちとう)は、既存の井水利用により、夏は冷涼水盤、冬は雪溜めスペース、中間期はケアガーデンとして季節に応じて機能します。



(3) 災害や感染症に強い施設の提案

① 奥会津地域における医療の拠点となるよう、豪雨、豪雪、地震などの災害発生時においても患者や職員の安全確保、通常と同程度の医療機能を維持できる災害に強い医療施設とする提案

●災害に強いライフライン多重化によるBCP病院

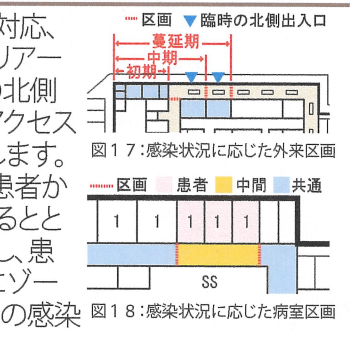
- 災害に備え、施設と運用の両面でのBCP病院(継続稼働)を実現する計画とします。



② 感染症の発生に備え、感染症患者の受入れを十分に考慮し、感染拡大時にも、通常と同程度の医療提供ができる施設の提案

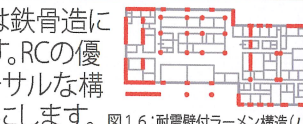
●柔軟かつ段階的な感染症対応が可能な計画

- 外来は、初期は感染外来で対応、中期、蔓延期は風除室でトリージ後、外来を区画し、臨時の北側出入口から診療室に直接アクセス可能とし、感染対応可能とします。
- 2階に病棟を配置し、外来患者からの感染リスクを最小化するとともに、1床室を廊下で区画し、患者、中間、共通の3レベルにゾーニングする事で病室単位での感染対策を可能とします。



●耐震性と自由な平面を両立する構造計画

- 外殻構造をRC構造とし、内部は鉄骨造により自由な空間を可能とします。RCの優れた耐震性と鉄骨のユニバーサルな構造が、将来の間取変更を容易にします。

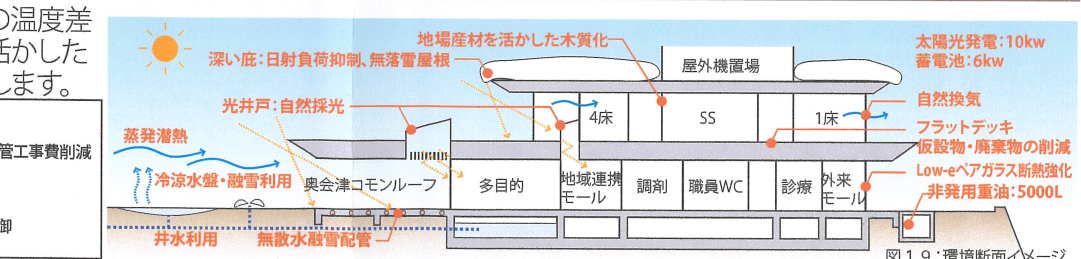


(4) 県産材の積極的な活用やエネルギー性能が高く持続可能性に優れた施設の提案

① 本県の森林資源の活用や、消費エネルギーの抑制等に配慮した施設の提案

●奥会津の豊かな森林資源と気候・風土を活かした環境に優しいエコホスピタル

- 奥会津の気候の特徴(昼夜の温度差が大きい等)や地域特性を活かした環境共生エコホスピタルとします。

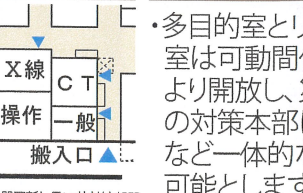


(5) 将来的な施設の可変性に関する提案

① 医療制度改革や医療技術の進歩、医療ニーズ等の将来的な変化に柔軟に対応できる施設の提案

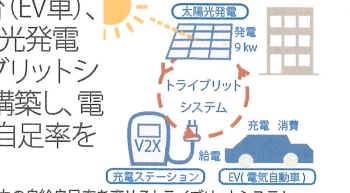
●更新や改修に対応可能な計画

- 将来変化が大きい放射線部門は西側に配置し、機器更新のための搬入口を確保します。
- 間仕切り壁の乾式化により改修を容易にします。



●可変性のある多目的室・リハビリ室

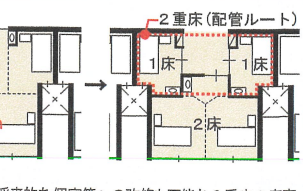
- 多目的室とリハビリ室は可動間仕切りにより開放し、災害時の対策本部になるなど一体的な利用を可能とします。



(6) その他の提案

●時代の变化に柔軟に応えるフレキシブルな病室計画

- 4床室は各々専用の窓を配置し、採光と通風を確保することで、将来的に1床や2床室への変更も対応します。



●ZEB Readyを目指す環境建築

- エネルギー消費量の削減と太陽光発電(10kw)による創エネルギーによりZEB Readyを目指します。

